

=====  
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の  
皆様にお送りしております。  
=====

◆◇

◆ NEE Mail Magazine 124号 ◆

-----2019-5-7◆◇

皐月5月です。令和の時代の最初の号となります。

10連休も終わり、本日から学校も再開され、また多忙な日々がはじまります。

学校は長期休業がありますが、こんなに長く国全体が休んだことはなかったかもしれませぬ。この効果はどうであったのか、教育面だけでなく、経済的でも興味深いものがあります。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

-----  
【1】最新活動報告

19年4月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「事例を見直すーコンビニ教材」

-----  
【ご案内】「夏休み経済教室」のプログラムが決まりました

-----  
今夏も、東京証券取引所(日本取引所グループ)との共済で「先生のための夏休み経済教室」が開催されます。

■日程：既報

8月5日(月)大阪中学向け(会場：国民會館)

8月6日(火)大阪高校向け(同)

8月8日(木)東京高校向け①(会場：東証ホール)

8月9日(金)東京高校向け②(同)

8月19日(月)東京中学向け①(会場：東証ホール)

8月20日(火)東京中学向け②(同)

■内容：

基本的なコンセプトは「エコノミストと経済の授業をつくる」で、プログラムを作成しました。高校では新テストと「労働」をテーマとして、新科目「公共」を念頭においたプログラムを企画しています。

・テスト関係では、鍋島史一氏(教育実践研究オフィスF)の「問いを軸にした授業デザイン」(東京)、佐藤英司先生(福島大学)の「エコノミストと解く新

テスト問題」(大阪)の講義に加え、東京、大阪会場でそれぞれ現場の先生から新テストと視点とした授業改善の実践報告があります。

・東京会場のテーマの労働関係では、山崎貴史氏(読売新聞)の「ジャーナリストが見る日本の労働問題」、安藤至大先生(日本大学)の「次世代の職業選択を経済学から考える」の二つの講義をもとに、二人の現場教員からの「エコノミストとつくる労働の授業」の提案があります。

・講演では、小巻泰之先生(大阪経済大学)の「授業で役立つ経済学 統計データの読み解き方」(東京・大阪)があります。また、篠原総一代表による「米中摩擦のとらえ方 現実と教科書の乖離」(東京)の講義もあります。

中学では、来年度から始まる新学習指導要領に対応した授業づくりを提案してゆきたいと思います。

・講義では、樋口雅夫先生(玉川大学)が「新学習指導要領下での経済教育」(大阪)と、升野伸子先生(筑波大学附属中学)が同じタイトルの講義(東京)があります。

・実践報告では、探究活動に関して大阪の中学校のお二人の先生の実践報告が(東京・大阪)であります。また、活動型教材の実践報告が東京で行なわれます。

・「エコノミストと作る経済の授業」では、東京と大阪でそれぞれ二人の現場の先生からの提案があります。

・講演は、中室牧子先生(慶應義塾大学)による「教育に科学的根拠を」と、諸富徹先生(京都大学)による「持続可能な社会の教え方」が東京で行なわれます。

金融教育関係では、「日本の証券市場の歴史」と「新教材の紹介と実践報告」が東京証券取引所、大阪取引所の担当者からそれぞれ行なわれます。

プログラムは5月中旬にはネットワークHPおよび東京証券取引所HPにアップ予定です。また、案内チラシは6月上旬に全国の中学、高等学校に送付の予定です。

---

## 【 1 】最新活動報告

---

■東京部会(No.108)を開催しました。

日時:2019年4月25日(木)19時30分~21時30分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟446号会議室

内容の概略:参加者12名

(1)鍋島史一氏(教育実践研究オフィスF代表)より、夏休み経済教室で講義

予定の「出題研究の成果を活かした授業改善へのアプローチ」の報告があり、検討が行なわれました。

- ・鍋島氏からは、意欲的な私立大学の問題および新テストの試行問題をもとにした問題分析とそれを踏まえた授業改善の方向性が提案される予定です。
- ・検討では、授業で使える、授業改善のヒントとなる良問を選択するだけでなく、悪問を排除することが大切であり、入試問題検討のプロジェクトの再開などが必要になるのではなどの提言がありました。

(2) 鍋島氏より「ネットワーク HP」の改善の提言がありました。

- ・ネットワークの HP は、これまでの実践報告や活動報告を見つけ出しにくく、サイトを訪問してくれた人が、目的の情報に到達できるようにする修正が必要であるとの提起があり、優先順位が高いものから検討することになりました。

(3) 鈴木深氏（東京証券取引所）から「夏休み経済教室」のプログラムに関する確認が行なわれました。

- ・各プログラムのタイトルを内容がわかりやすいものとし、ちらしの表示方法を修正して報告者とコメントーターの関係がわかるようにすることなどの指摘がされ、大阪部会での確認の上、連休明けにチラシ原稿を入稿する手順で準備することになりました。

(4) 西崎弘人先生（目黒区立大鳥中学校）から「将来の政策判断を目指して」の報告がありました。

- ・西崎先生の報告は、「夏休み経済教室」の東京中学での発表予定の内容です。
- ・歴史学習で「ディベート」、「模擬国連総会」を行ない、そのうえで、公民分野で財政問題をテーマとして「政治家になったつもりで予算案を考えよう」という政治と経済を融合するプログラム（全 10 時間）です。

- ・段階を踏んで全員が参加できる学習プログラムを実施したことにより、生徒の理解の深まりがみられること、また、この授業をきっかけとして、進学の際の学校選択や将来像などにプラスの影響がでていることが報告されました。

- ・検討では、夏の教室で発表する際のプレゼンテーションの工夫や、同種の実践を行なっている大阪の安野先生の実践などを参考してほしいという要望などが出され、夏の教室に向け、これまでの実践の報告にプラスして、学習プログラムの改善提案や提言までさせるように工夫することで検討を終えました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo108report.pdf>

■大阪部会(No.63)を開催しました。

日時:2019年4月27日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

出席者は25名。

(1) 岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、「先生のための夏休み経済教室」のプログラムの紹介と、篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、プログラムの趣旨説明がありました。

(2) 川村由美子先生(市立咲くやこの花中学)から「中学校における「一人ひとりの課題探求力をはぐくむ指導・評価」の実践的研究」と題する報告がありました。  
・川村先生の実践は、前回丹松美代志先生(大阪教育大学等)から紹介され、夏休み経済教室でも報告が予定されているものです。

・川村実践は、中学1年生に「世界のさまざまな地域の調査」、2年生に「観光大使になって都道府県の魅力を伝えよう」と題した課題設定・調査・分析・発表・レポート執筆を行わせ、それらを3年生の卒業レポートにつなげるというものです。

・今回は、とくに3年生が卒業レポートの完成にいたる過程が報告され、様々な手法、他教科との横断的な学習、課題設定のための個人面談、専門機関や専門家へのアプローチ、プレゼンテーション大会などの取組みが紹介されました。  
・検討では、ルーブリックを提示した評価の仕方、生徒へのフィードバック、生徒自身による課題設定の難しさなどについて、質問や意見が出されました。

(3) 山本雅康先生(奈良学園中学高校)から、「大学入試共通テスト試行問題などの入試問題を使って思考力判断力表現力を身につける授業の実践」の報告がありました。

・センター新テストでも近年の大学入試でも、グラフや表を読み取って、現実問題について考えさせ、判断させる問題が増加しています。山本先生は、そのような問題を使って、生徒に議論させながら解答させ、それを通して必要な力を身につけさせようとするものです。

・また、総務省「なるほど統計学園高等部」などを活用して統計データや様々なグラフにふれ、さらには地域経済分析システム(RESAS)を使って、生徒の研修旅行の事前学習に活用するなど、様々な方法で、事実にもとづく思考・判断・表現を体験させる実践が報告されました。

(4) 統計データを読ませる問題は、大学入試だけでなく高校入試でも増えていて、ネットワークでは、小巻泰之先生(大阪経済大学)に夏休み経済教室での講演を依頼しており、今回は「授業で役立つ経済学 統計データの読み解き方」の下案が示されました。

(5)行壽浩司先生(福井県美浜中学校)から、「公共財を題材にした教材開発～『雪かきゲーム』から考える～」が報告されました。

・2018年12月の大阪部会で報告されたものであり、夏休み経済教室では、大阪と東京での報告が予定されています。

(6) 飯島知明先生(島本町立第一中学校)から「NIEを活用した探求活動から社会討論へ」が報告されました。

・飯島先生も、川村先生とともに、夏休み経済教室で大阪でも東京でも登壇いただくことになっています。

(7) ほかに、安野雄一先生(東三小中学校)から「金融教育 未来の運用の仕方を考えよう～小学校における価値判断・意思決定力を育む学びを通して～」、大塚雅之先生(三国ヶ丘高校)から「高卒認定試験の経済分野の問題の分析」、奥田修一郎先生(大阪教育大学等)から「アリンコ国の外国人労働問題」の資料が配られたが、今回は夏休み経済教室関連を優先したため、残念ながら報告いただく時間がとれませんでした。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka63report.pdf>

---

## 【 2 】定例部会のご案内

---

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.109)を開催します。

日時:2019年5月14日(火)19時00分～21時00分

場所:慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室

■大阪部会(No.64)を開催します

日時:2019年6月29日(土) 18時00分～20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

■札幌部会(No.20)を開催します。

日時:2019年6月8日(土) 14時30分～17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム(予定)

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル5階

---

### 【 3 】授業のヒント 「事例を見直すーコンビニ教材」

---

教科書の記述が現実より遅れてしまうのは、現在の検定制度や社会の変化からいって仕方がない部分が多いのは周知のとおりです。

それでも、今の教科書は頑張っていて、かなり現実の変化をフォローしています。にもかかわらず、現実の進行とギャップが出てしまっている例がでてしまうケースもあります。

今回はそういった例の一つであるコンビニ教材を取り上げてみます。

#### (1)コンビニ立地のロールプレイ教材の例

中学校トップのシェアを持つ T 社の教科書の経済学習の冒頭には、「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」という導入教材があります。

ある郊外のまちにコンビニエンスストアを開業するとして、どこがよいかを考えさせる教材です。様々な制約条件のなかで選択をするという経済の考え方を自然に考えさせる意味では良い導入教材でしょう。

ところが、この教材の事例となったコンビニの立地やコンビニのビジネスモデルに関しては、現在大きな問題が発生しているのはご承知の通りです。

#### (2)コンビニ業界の抱える問題と授業

立地のロールプレイに関して言えば、ドミナント戦略の是非が問題になっています。業界最大手の S 社はドミナント戦略で成功してきた実績をあげてきました。しかし、ドミナント戦略のマイナスも発生していて、店ごとの共食い状況がでてしまっているところもあります。

この教材でいえば、一カ所を選ぶのではなく、全部をドミナントで立地させることも現実には起こっているわけです。もちろん、ドミナント戦略は、コンビニの本部の戦略ですから、この教材が要求しているコンビニの経営者になって考えるという課題の要求とはレベルの違う話です。

とはいえ、コンビニの出店を考える場合には、コンビニのフランチャイズという特質や周辺のライバルとの関係などももうすこし現実を踏まえたものが欲しいところです。そのようなリアルな問題はこの教材からは当然浮かび上がりません。

また、この教材ではとりあげられていませんが、24 時間営業の問題は、中学や高校などではディベートのテーマとして取り上げられていました。

ロールプレイやシミュレーションなどの現実を単純化させて、それをもとに様々な体験や知見を得させようとする授業は、学習効果が高いことは実証済みですが、これまでは、振り返りの時間に現実との関係を考えさせてきました。

ところが、この事例のように、良く出来た教材でもモデルと現実の乖離をどこまで埋めるのか、それを事前に考えておく必要がでてくる教材が結構教科書にはあるということでしょう。

### (3)学生からの指摘

この教材、教科教育法の授業で取り組ませてみました。

取り組んだのは大学生ですから、コンビニのバイトの経験アリという学生もいて、面白いけれど、ちょっとねという意見がでてきました。

場所に関しては、ライバルの店や同じチェーンの店もここに出てこないの、これだけでは判断できないよねというのができました。

ライバル店は何と聞いたら、同じコンビニよりも商品によってはドラッグストアだよねという回答でした。

ちなみに、コンビニが売上を落として、ドラッグストアが伸びているというデータはTK社の教科書にはすでに登場しています。

24時間営業に関しては、深夜にはお客はさすがに少ないけれど、場所によっては有り難いんじゃないのと言うのが学生さんの意見です。彼が働いていた店では、タバコとおにぎりが売れ筋だったとのことで、場所による違いはかなりありそう。

ちょっと面白かったのは、高齢者が来て、お客がいない時には、話し相手として、いろいろ話してゆくという。たしかに、スーパーのレジの人とは話ができないし、コンビニは高齢者の友かもね、ということで周りの学生も納得していた。

同僚には、外国人のバイトも多く、深夜のコンビニは外国人で持っているんじゃないのという話題にもなりました。

### (4)現実をキャッチアップする教材さがし

コンビニ教材は、教材としてはまだ十分に使えるものですが、コンビニ自体がビジネスモデルとして課題を抱えてきている点から言って、その課題を踏まえた形での修正なり補正が必要になる段階に来ているといえるでしょう。

その意味では、コンビニに変わる次の教材モデルが必要で、2021年度から使われる新課程の教科書で何が登場するか、興味深いものがあります。

でも、次の教科書が出来るのを待つまでに、私達が次の時代に生きる生徒にふさわしい教材を開発できれば一番です。

夏休みの経済教室の報告から先生方の新鮮なアイデアが登場することを期待したいところです。(新井)

---

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

10 連休。すこしまとまった小説を読もうと手に取ったのが、ディケンズの『二都物語』。ルソーを授業で扱ったので、フランス革命時代の雰囲気を知るためもあり、未読だったので挑戦。「自由・平等・友愛、さもなくば死の単一不可分の共和国」でおきた事態がリアルに迫るドラマでした。

現代にも同様な熱狂を生み出す要素はありや否や、生徒に問いかけてみたい気分になり、外の爽やかさとはちょっと違った連休になってしまいました。(新井)

---

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

---



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇